

鳥栖市誌研究編 第6集

鳥栖の建築



八幡神社神殿(立石町)



八坂神社神殿(本町)



姫古曾神社拝殿（姫方町）



老松神社神楽殿（神辺町）



西法寺本堂 (蔵上町)



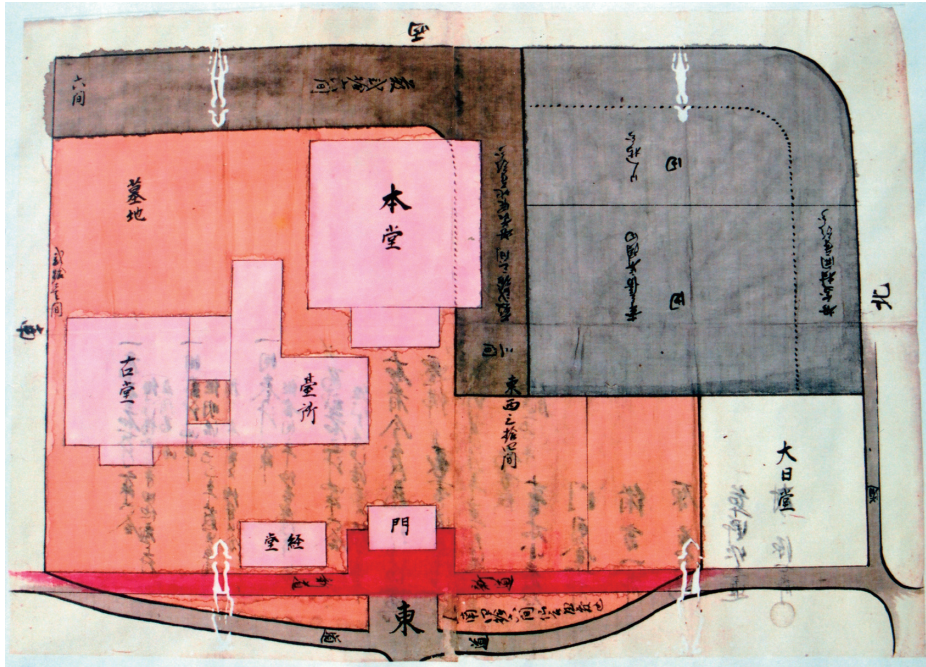
西法寺山門 (蔵上町)



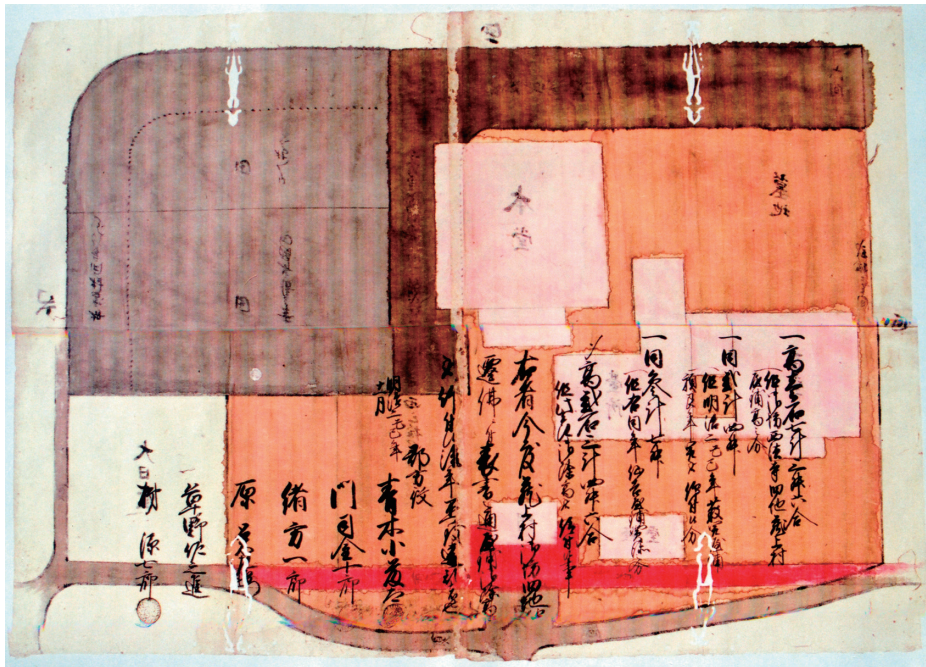
鳥栖駅舎 (京町)



中央区会館 (鎗田町)



西法寺古図(表)



西法寺古図(裏)

刊行のことば

市政50周年事業の一環として開始しました『鳥栖市誌』編纂事業は、「多様な生活と文化」「人・物・技術の交流の広がり」をテーマとして作業を進め、7年目になります。すでに『鳥栖市誌』本編第1巻「自然地理編」と第2巻「原始・古代編」、第3巻「中世・近代編」を現在までに刊行しております。また本編の刊行はもとより、地域の重要な資料・研究をまとめた「資料編」「研究編」の刊行も重要な編纂事業の方針としており、今日までに、資料編第5〜11集、研究編5集を刊行しております。

当市は、筑紫平野と福岡平野の結節点に位置することから、古来より交通の要衝として栄え、今日もこの地域性を生かしたまちづくりが行われています。ただし、現在の生活スタイルの変化とともに昔ながらの風景が急速に失われてきており、伝統的な建造物も数少なくなってきました。

そこで平成13年から6年間の期間をかけ、1年間10数件程度の建物調査を実施してまいりました。調査対象は、神社・寺院・民家をはじめ、地域の特徴的な建物を中心に調査を行いました。その中には、鉄道、農業、売薬、製粉、鍛冶等に利用された建物などの鳥栖地域の生活を考える上で貴重な建物も記録に残すことができました。

最後になりましたが、本編の刊行にあたり、建物調査から執筆・監修まで、困難な作業にたずさわっていただきました九州産業大学教授佐藤正彦氏、同大学工学部建築学科佐藤研究室の皆様方に、深い敬意と感謝の意を表しますとともに、建物調査にご協力いただき、また貴重な資料等を提示していただきました、市民の皆様ならびに関係各位に対し心からお礼申し上げます。

平成20年3月

鳥栖市誌編纂委員会 委員長 米倉 利昭

例言

1 本巻は鳥栖市に現在または調査時点で存在した歴史的な建造物について、その実測図面・写真のほか、様式的・技術的特色・復元的調査、沿革に関する文献史料などをまとめたものである。

2 取り扱った時代は、鳥栖市に現存する建築遺構で1番古いものが江戸時代の建設なので、上限は江戸時代とし、下限については昭和20年（1945）ごろとした。

3 建築の種類は、建築を文化財として保存する場合の主要な対象である神社・寺院、民家（農家・商家・町家など）および明治以降の洋風建築などとし、石造鳥居や石造社殿以外の五輪塔・石造層塔などの外の石造物は割愛した。鳥居は明神鳥居の一種である笠木の先端がバナナ型になっているものを当地方の呼称になっている肥前鳥居とした。

4 建築の種類別区分は、第1章神社、第2章寺院、第3章民家の3区分とし、各区分内の配列順序は、原則として町別に現行の行政順序に従った。第4章はその他の建築、第5章は建築工匠について触れた。

5 個別解説では、建物名称の次に、所在地・平面形式・屋根形式・葺材・建築年代（根拠）・文化財指定種別・指定年月日の順に、文化庁文化財保護部建造物課の編集による『国宝・重要文化財指定目録』に準じて列記した。ただし、工事竣工年は年度ではなく、本文同様に暦年とした。設計者・施工者名が判明している建物は建築年代の次に入れた。なお、該当のない項目については省略した。複数の建物を一括して取り扱ったものは、共通する項目について適宜整理して記した。

6 建物名称は、文化財指定の名称に準拠した。ただし、文化財指定以外の民家では、所有者名などとした。

7 本文の記述は、原則として常用漢字、現代かなづかい、および鳥栖市誌編集委員会の方針によった。ただし建築用語は漢字を用い、また特殊な用語には旧字体を用いたものもある。その場合、ルビを付けた。8 年号は日本年号を用い、適宜（ ）内に西暦を付した。

表 1

時代区分			西暦
古代	原始時代		～592
	飛鳥時代		593～709
	奈良時代		710～793
	平安	前期 中期 後半	794～929 930～1085 1086～1184
中世	鎌倉	前半 後半	1185～1274 1275～1332
	室町	前半 (南北朝)	1333～1392
		中期 後期	1393～1466 1467～1572
近世	桃山		1573～1614
	江戸	前半	1615～1660
		中期	1661～1750
		後期 末期	1751～1829 1830～1867
近代	明治		1868～1911
	大正		1912～1925

9 時代区分は建築史学で一般に用いられている表1の年代区分に従った。

なお、明治は元々15年を前期、16～30年を中期、31年～45年を後期とした。

人名には、原則として敬称を省略した。

11 10 図面の寸法は「ミリメートル」で表示した。建物の方位は適宜矢印で示し、矢印の先端方向を北とした。民家では、その家で呼称

されてきた室名は、カタカナで示した。室名の不明な場合は「6畳」などと具体的な部屋の広さで示した。主要な出入り口は△

または▲で表示した。レは竿縁天井、ルは根太天井を示し、ナは長押、ハは押入れ、ヒは仏壇、キは神棚を示す。主屋の土間

部分は網かけを付けて床部分と区別した。

13 12 図版を借用・転載したものについては、図の表題（ ）内に原図所蔵者・提供者・引用文献名など出典を記した。

沿革史料では、原文書が改行されているものを、改行せずに記す場合には改行の記号として／を用いた。また、棟札などで1段に

収まらないものは※の記号で、接続する行のまとまりと位置を記した。

棟札等の寸法は「センチメートル」で表示した。

文献資料では綴込部分を……の点線で示した。

15 14 参考文献のうち、調査報告書については個別解説では略記し、主要参考文献一覧に執筆者ほかを詳述した。

17 16 本編収録建造物は、市誌編纂係の選定と、『佐賀県の近世社寺建築』『佐賀県の近代和風建築』『鳥栖の民家』掲載のもので

ある。

鳥栖の建築 目次

口 序 例
 絵 文 言

鳥栖市誌編纂委員会 委員長 米倉利昭

序論	7
1 資料収録の範囲と方針	9
2 鳥栖の地理	11
3 鳥栖の建築	13
第1章 神社建築	19
概要	21
神殿	22
拝殿	23
その他の建物	25
鳥居	25
1 日子神社(轟木町)	32
2 老松神社(高田町)	38
3 水影神社(本鳥栖町)	43
4 八坂神社(田代新町)	49
5 天満神社(田代外町)	55
6 八坂神社(本町)	58
7 老松神社(神辺町)	63
8 老松神社(萱方町)	68
9 老松神社(古賀町)	73
10 大山祇神社(河内町)	79
11 天満神社(酒井西町)	82
12 老松神社(曾根崎町)	87
13 天満神社(水屋町)	94
14 姫古曾神社(姫方町)	100
15 八幡神社(養父町)	106
16 四阿屋神社(牛原町)	115
17 香椎神社(牛原町)	122
18 八幡神社(山浦町)	129
19 天満神社(平田町)	135
20 八幡神社(立石町)	142
21 八幡神社(村田町)	147

序 論

1 資料収録の範囲と方針

鳥栖市における人類の建築行為を示す最初の証拠は、くらのうえ蔵上遺跡から縄文時代の住居跡が確認されている。その後弥生時代には、やすながた安永田遺跡をはじめとして数多くの集落跡もみられる。また、鳥栖市の北東30km程の福岡市は、国内有数の弥生時代の遺跡の密集地である。博多区の板付遺跡や金隈遺跡、西区の吉武高木遺跡や野方遺跡が代表的なものである。また、西方には広大な吉野ヶ里遺跡がある。市内の縄文早期遺跡として西田遺跡があつて、住居跡など発見されていないが、定住拠点である可能性がある¹。したがって、約6000年以上も前から人類が生活し、建築行為があつた。鳥栖市内にも縄文草創期以前の建築行為を示す証拠があるかも知れないが、未だ確認はされていない。

建築資料の中には、このような建築遺跡の他に、遺構、文献史料、むなふだ棟札や墨書、ぼくしょ民俗資料などがある。

遺跡の場合は建築それ自身が失われたが、地中に礎石や柱穴、炉跡などが残っている。この場合は間取りや生活状況を知る有力な手がかりになる。したがって、実際に建物が残っていない時代や、残っている建物が少ない場合、時代の建築を知るための有力な資料となる。

遺構は建築資料の中で一番中心となるもので、重要である。しかしながら、最初に建てられた後、風雨にさらされて傷みも生ずるので、徐々に修理が加えられている。屋根の葺き替えや間取りの改造、増築などを受けながら現在まで伝えられてきた建物である。これらの変遷や地域による異同を知ることが建築史学の目的の一つでもある。

文献史料は設計図(家相図)、普請帳(工事記録)、間取図、使用状況、建築基準法(建築規制)などである。これらによつて当時の建築設計技術や使われ方、習慣などを知ることができる。

また、棟札や部材の墨書、きどう祈禱札は設計図や工事記録と共に建築に直結する重要な資料

1

鳥栖市誌編纂委員会編(2005)『鳥栖市誌
巻 原始・古代編』 第2

編著者略歴

佐藤正彦（さとう まさひこ）

1938年 神奈川県生まれ

経歴 1972年 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程単位取得満期退学

1974年 一級建築士

1980年 九州産業大学工学部建築学科教授

現在 九州産業大学工学部教授 佐賀県文化財保護審議会委員 鳥栖市文化財保護審議会委員

専門 日本建築史

主要著書 天井裏の文化史（1995）講談社

北インドの建築入門（1996）彰国社

南インドの建築入門（1996）彰国社

蘇れ!幻の福岡城天守（2001）河出書房新社

伊万里市史建築編（2002）伊万里市

鳥栖市誌研究編 第6集

鳥栖の建築

平成20年3月31日

編集 鳥栖市誌編纂委員会

佐藤 正彦

発行 鳥栖市

佐賀県鳥栖市宿町1118番地

印刷 株式会社 ドミツクアルファ

佐賀県鳥栖市元町1177-16

頒価 3000円